

ルワンダ国灌漑水管理能力 向上プロジェクト (WAMCAB) 始動！

ルワンダは、東アフリカ地域に位置する小さな国です。農業が GDP の 33%、労働人口の約 7 割を占めています。農民の多くは、小規模な農地を耕作しています。

2010 年以降は、平均 7%前後という高い実質経済成長率を維持しています。国家財政に占める援助依存率は 33.6%（2016-2017 年会計年度）です。慢性的な輸入超過が課題である一方、全体的には安定したマクロ経済運営がなされています。インターネットを利用した ICT や観光を基盤に、「アフリカの奇跡」と呼ばれ目覚ましく成長を続けています。「千の丘の国」と呼ばれるなだらかな地形を生かしたコーヒーなどの農業も頑張っています。

プロジェクト背景

ルワンダでは現在も雨に頼った営農が主体です。したがって、水稻や穀物、園芸作物の栽培のために灌漑施設を整備し、天水依存型農業から脱却することが重要な開発優先課題の一つとして位置付けられています。

整備された灌漑スキームの運営は、政府から灌漑水利組合（IWUO）に移管することとされていますが、制度の整備が不十分で、政府側・IWUO 側ともに能力が追いついていないのが現状です。

このため、ルワンダ政府の要請に基づいて、国際協力機構（JICA）は、ルワンダ農業動物資源庁（RAB）を実施機関とした灌漑水管理能力向上プロジェクトを実施することとし、2019 年 4 月に現地での活動が開始されました。

プロジェクトの目標は「モデル地区において IWUO によるスキーム管理能力が向上する」であり、以下の 5 つの成果を実現することを通じて達成することとしています。

成果

- 1 IWUO への灌漑管理移管の仕組みを明確化する
- 2 モデル地区における IWUO の組織強化が図られる
- 3 モデル地区における維持管理が適正に行われる
- 4 モデル地区における水管理が適正に行われる
- 5 モデル地区における営農活動が促進される



灌漑水利組合や行政機関の灌漑水管理による
営農活動の促進を目指して



これまでの主な活動

関係機関との会議及びベースライン調査

各月の主な活動実績

- 4月：プロジェクト始動、チーム結成、基礎情報収集
- 5月：第1回合同調整委員会
- 6月：ベースライン調査（ギサガラ郡簡易調査、営農関連調査）、第1回タスクフォース会議
- 7月：ベースライン調査（灌漑スキーム調査）
- 8月：ベースライン調査（キャパシティアセスメント、サービスプロバイダー調査など）、第2回タスクフォース会議
- 9月：ベースライン調査の取りまとめ、分析

合同調整委員会の開催

JICA チームがルワンダに到着してから約1カ月後の5月8日に、プロジェクト運営の基本事項を議論する合同調整委員会の第1回会議が首都キガリで開催されました。

この場で、2024年まで続く5年間のプロジェクトの枠組みが承認され、東部県のルワマガナ郡、ンゴマ郡と、新たに南部県のギサガラ郡を加えた計3郡を対象として、各郡のモデル地区を中心にIWUOや灌漑水管理に関する行政機関の能力向上を目指していくことが決定されました。

基礎情報収集、及びベースライン調査の実施

IWUOを取り巻く現状と課題を把握し、今後の改善計画と研修計画を作成するため、プロジェクト始動後から基礎情報収集、及びベースライン調査を実施してきました。

他のドナーによる灌漑関連事業の聞き取り調査を行ったほか、生産組合や精米所、マーケット、農業展覧会などを訪問して、営農関連の調査を行いました。

また、7月には、対象の33灌漑スキームにおける灌漑水利組合と農業協同組合に対して聞き取り調査を実施しました。

これに加え、組織の能力を評価するキャパシティアセスメントや対象郡で活動する民間のサービスプロバイダーの動向なども調査しました。

プロジェクトの実施体制

プロジェクト・ディレクター：ルワンダ農業動物資源庁（RAB）総局長
副プロジェクト・ディレクター：ルワンダ農業動物資源庁（RAB）副総局長
プロジェクト・マネージャー：農地・灌漑・研究・技術移転局（LIR&TT）局長

カウンターパート
（チーフ・インプリメンター：
IWUO サポートユニット長）



プロジェクトチーム
（JICA 専門家、ローカル専門家）